

がんセンターNEWS

Aichi Cancer Center News

新年を迎えて



愛知県がんセンター総長

木下 平

明けましておめでとうございます。

着任5年目になりますが、当初、このがんセンターを発展させるためには研究を含めた高度・先進医療の追求による均てん化ではない差別化が必要で、その実現のためにはそれを理解してくれる職員の帰属意識を高める必要があると考えていました。その後、それを常に真剣に考えてくれている多くの職員や関係の皆様と巡り会い、私自身の帰属意識も高まってまいりました。

また、着任時に過去3年間の人員・組織要求に対する県当局の回答を確認しましたが、3年間ほぼゼロ査定でした。前任地の国立がん研究センター東病院（425床）と比べ、500床を有する愛知県がんセンター中央病院の方が医師・事務職などの数が少ないことに驚き、同時に、これが職員の疲弊や元気が出ない原因の一つと考えました。これではいけないと、二村前愛知県病院事業庁長にもお願いし、職員数の増加を抑制している行革大綱から病院部門を外してほしいと知事・副知事にも訴え、大綱からの除外は認めてもらえていないものの、以来徐々にではありますが、ヒトとモノが充足されるようになってまいりました。

しかしながら、中央病院、愛知病院ともに患者数は伸び悩んでおり、新患確保のため近隣の医師会の先生への挨拶回り、広報活動、医療連携のための意見交換会など様々な努力をしてまいりましたが、経営面では、愛知県がんセンター中央病院ですら黒字幅が減少し、愛知県の県立病院全体では多額の累積欠損金を抱えており、更なる経営改善が喫緊の課題であります。

経営を始めとして病院を取り巻く環境は厳しい状況が続いておりますが、何と言いましても日本や世界を引っ張る高度・先進医療と研究が愛知県がんセンターの一番の使命です。1年1年新たな気持ちで職員一丸となって目標に向かって頑張っております。

皆様の御理解と御支援をよろしくお願い申し上げます。

基本理念

私たちは患者さんの立場にたって、最先端の研究成果と根拠に基づいた最良のがん医療を提供します。

The mission of Aichi Cancer Center is to provide patients suffering from cancer with compassionate care and the best treatment based on evidence and leading-edge cancer research.

有料個室をリニューアルしました！

愛知県がんセンターは500床の病院です。その中には、全て有料個室で成り立っている病棟が3つあります。現在の建物が築25年を経過したため、時代のニーズに合わせた個室環境を提供できるように、8月から10月にかけて1病棟ずつ病棟を閉鎖して大規模な改装工事を行いました。

今回のテーマは「和のリゾート」と称し、旅行にでも来たような癒しのある空間で入院生活を送っていただきたいという当院スタッフの願いを取り入れたデザインとしました。お部屋のタイプは3つありますが、タイプ毎にデザインが違い、今までの病院のイメージにはない温かみのある雰囲気になりました。

全てのお部屋は、バリアフリーでトイレとブルーレイ付のテレビがあり、元々あった窓の障子を活かした和風のつくりになっています。一番広いタイプのA室はお部屋にユニットバスとキッチン、応接セットがついています。B室は寝たままでも見やすい50型のテレビを設置しました。患者さんからも“ゆっくりできる”“落ち着くわ”などのご意見をいただいております。

落ち着いた個室でリラックスした状態で療養していただけるようになりました。私たち看護師もお部屋に負けないように、患者さんに安楽に、安心していただいて、この病院に来てよかったと言われるように心をこめて看護をしていきたいと思っております。

(9東病棟師長 西尾充代)

Aタイプ



Bタイプ



Cタイプ



ジェイコグ ベスト コーディネーター JCOG Best Coordinator賞 受賞

JCOG（日本臨床腫瘍研究グループ）のBest Coordinator賞は、1年間で最も活躍された研究支援者に贈られる名誉ある賞です。

JCOG試験の症例報告書作成や、追跡調査対応に尽力し、各研究への貢献度が非常に高かったことが認められ、受賞のはこびとなりました。

臨床試験部一丸となって臨床試験に取り組んだ姿勢を評価されたものです。今後も臨床試験が安全に、倫理的に、かつ科学的に行われるよう、精一杯業務に励んでまいります。

～臨床試験部 臨床試験室～



臨床試験室スタッフ一同

肺がんの最先端治療

～精密医療と免疫療法の扉が開きました～



呼吸器内科部長

樋田 豊明

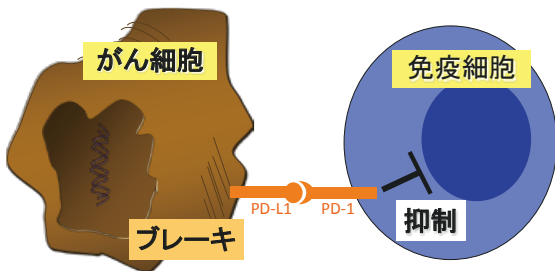
肺がんでは、EGFR、ALK、K-RAS、HER 2、ROS 1、RET、BRAF、METなどの遺伝子異常がみつき、それぞれの遺伝子異常に対する個別化治療薬（分子標的薬）の開発が進み、精密医療を行うことにより大きな効果が認められるようになってきました。

一方、がん細胞への直接攻撃ではなく、自分自身の免疫ががん細胞に有効に働くようにする新規免疫療法の開発も急速に進み（図）、劇的な効果が見られています。ヒトには免疫反応の調節メカニズムとして、自己に対する過剰な免疫反応や正常組織への障害を抑えるための機構、免疫チェックポイント機構が働いています。がんはこの機構を利用してがんに対する攻撃にブレーキをかけています。

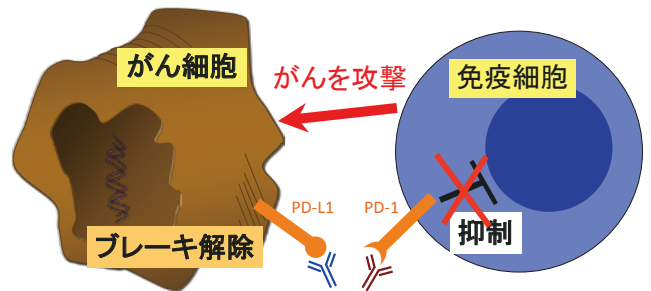
このブレーキを解除するのが免疫チェックポイント阻害薬で、最初に開発されたオプジーボは皮膚がん、非小細胞肺がんにつき、腎細胞がん、ホジキンリンパ腫への治療も認可されました。免疫療法で高い効果が得られる人を治療前に予測する方法についての検討が現在精力的に行われています。オプジーボに続き、ペンブロリズマブ、アテゾリズマブといった新薬も既に米国では

使用され、今後のベストな使用方法について、治療効果の予測や治療必要期間、また他の治療法との併用等について詳細な検討が進行しています。

免疫チェックポイントでのブレーキ



免疫チェックポイントのブレーキ解除



免疫チェックポイント阻害薬

- オプジーボ (抗PD-1抗体)
- ペンブロリズマブ (抗PD-1抗体)
- アテゾリズマブ (抗PD-L1抗体)

【図の説明】

ヒトには自己に対する過剰な免疫反応を抑制する免疫チェックポイントがあります。がん細胞はこのメカニズムを利用して免疫細胞からの攻撃にブレーキをかけています。このブレーキの解除をするのが新規免疫治療薬で、がん細胞への免疫力を回復します。

中部地区がん医療連携学術講演会のお知らせ

近隣の医師会、歯科医師会、薬剤師会のご協力のもと、平成26年から「中部地区がん医療連携学術講演会」を開催しており、本年3月に第6回目の学術講演会を開催します。医療従事者を対象に、がん医療に関する最新の情報を提供するとともに地域の健康増進を図ることを目的としています。また、講演会終了後に行う意見交換会では顔の見える関係を構築し、日頃の円滑な診療業務に役立てています。

～第6回中部地区がん医療連携学術講演会～

- ・日時 平成29年3月4日（土）16：30～
- ・場所 メルパルク名古屋（最寄駅 JR・地下鉄千種駅）

※樋田医師によるオプジーボに関する講演を行います。

※当日の参加も受け付けております。



第5回（H28.7.9開催）の様子

患者さん、登録医、がんセンターをつなぐホットな1頁

とうろく医探訪

 Produced by
 地域医療連携・相談支援センター
 No.2

名東医院 院長：伊藤克昭先生



『愛知県がんセンターと私』

愛知県がんセンターには昭和48年4月から、無給・有給含め20年間在籍させて頂きました。最後の2年は、新病院建設委員会の内科系部門責任者を仰せつかり、医師以外の仕事に追われました。基本設計図・実施設計図を持つての各部門との打ち合わせで、病棟へ上がるのは遅く、看護師さんには多大な迷惑をかけました。この間、英文論文も出せず、辞することにしました。

星ヶ丘の東で開院し四半世紀になろうとしています。住宅地の中で、場所が分かりにくい、どちらから行っても上り坂だねえと言われながらもなんとかやってきました。受診して下さった患者さんには有り難く思っています。開院後、胃内視鏡検査を月50件はしていましたが、経鼻内視鏡の普及で検査数は半減しました。時の流れを感じます。在宅医療も、在宅での導尿や点滴をしていましたが、訪問看護ステーションにお願いできるようになり助かっています。患者・医師にとって良い時代になったと実感しています。医師会・区役所や保健所・学校医・産業医の仕事も一つずつお役御免となっていきます。町医者 of 診療に専念してもう少し頑張ろうと思います。

【医療機関情報】

名東医院

診療科目／内科、胃腸科

電話／052-702-6001

所在地／465-0081

名古屋市名東区高間町 414

U R L／<http://ishikai.nagoya/hp/meitoku/7026001/>

	診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
午前	9:00-12:00	○	○	○	○	○	○	/
午後	5:00-7:00	○	○	/	○	○	/	/

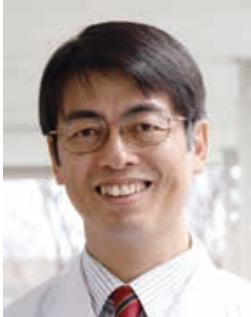


★アクセス：星ヶ丘より市バス、バス停山ノ神より徒歩5分

編集後記：大好評企画「とうろく医探訪」、記念すべき第2回は名東区の名東医院、伊藤先生をご紹介させて頂きました！住宅街の高台に建つ洒落た洋館の医院と、先生の柔和なお人柄が大変心地良い雰囲気を醸し出しております。これからもよろしくお願ひ致します！<Y.SANO>

悪性中皮腫の新規治療法の開発に取り組んでいます

～研究所 分子腫瘍学部～

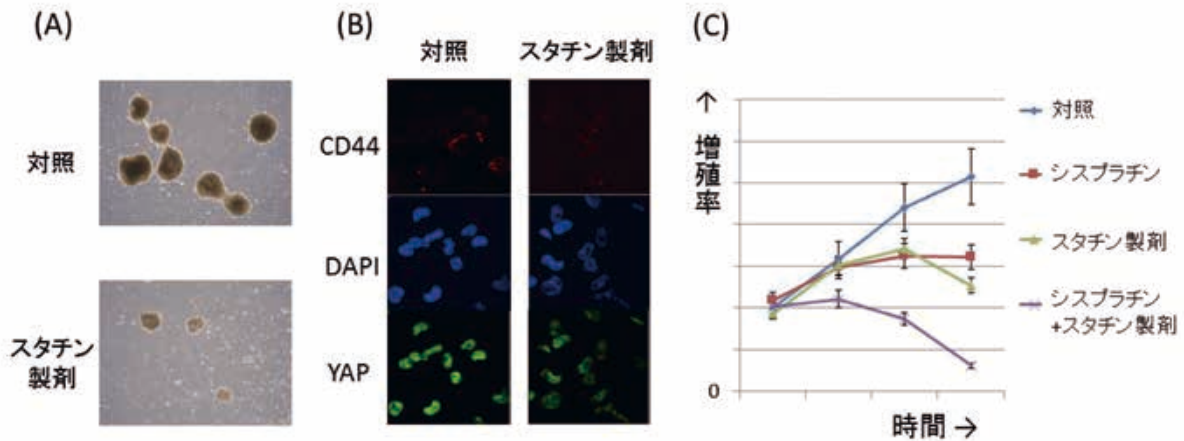


分子腫瘍学部長
関戸 好孝

アスベスト曝露で発症する悪性中皮腫が近年、日本において増加しています。悪性中皮腫は、確定診断時には根治手術を受けることが困難なことが多く、抗がん剤もシスプラチンとペメトレキセドの併用療法しか有効性を認められていません。現在、免疫チェックポイント阻害剤の治験が世界中で行われており、中皮腫も若干効果が認められるものがあると報告されていますが、まだまだ、不十分な状況です。

分子腫瘍学部では、悪性中皮腫の原因遺伝子の解明と、新規の診断法や治療法につながる研究に取り組んでいます。原因遺伝子に関する研究は、兵庫医科大学と東京大学との共同研究で進めています。

最近、私達の研究室では、高脂血症の治療に用いられているスタチン製剤が、悪性中皮腫のあるタイプのものに、抗腫瘍効果が認められることを明らかにしました(図A,B)。さらに、スタチン製剤やシスプラチンそれぞれ単独よりも、併用投与にて悪性中皮腫細胞の増殖が抑制されることが明らかとなりました(図C)。今後、さらに研究を重ね、悪性中皮腫に対する新たな治療戦略を開発していきたいと考えています。



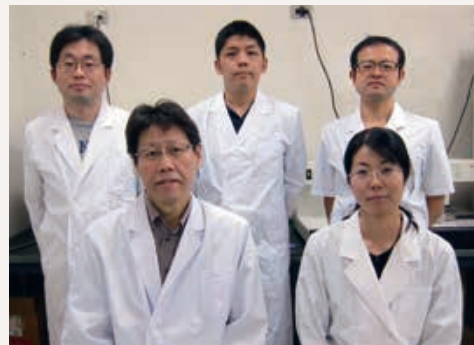
【図の説明：スタチン投与による悪性中皮腫細胞の増殖の抑制】

- (A) スタチン投与によりスフェア（細胞が球状に集積したもの）形成が抑えられました。
- (B) スタチン投与により、中皮腫細胞の悪性化に関わる分子であるCD44とYAPの発現が抑えられました。
- (C) スタチン単独、シスプラチン単独の抑制効果に比べ、両者の併用によりさらに増殖が抑えられました。

研究員の紹介

研究所～分子病態学部～

分子病態学部では、がんがどのように発生し、さらに悪性化して転移するのか、がんを発症する遺伝子変異マウスを用いて研究しています。また、がん悪液質の研究にも取り組んでいます。がん悪液質は、がんのために筋肉が急激に痩せて体重が減少する状態のことで、大昔から知られている現象ですが詳細は今でもよく分かっていません。がんの発生・悪性化、がん悪液質発症のメカニズムを解明し、新しい治療法の開発につなげることを目指しています。



前列左から：青木正博（部長）、梶野リエ（研究員）
後列左から：佐久間圭一郎（主任研究員）、小島康（主任研究員）、藤下晃章（主任研究員）

肺がんに対する完全胸腔鏡下・区域切除 ＝世界に先駆けた新たな取り組み＝

中央病院～呼吸器外科部～



呼吸器外科部長

坂尾 幸則

近年、外科領域では低侵襲手術としての鏡視下手術のニーズが高まっています。我々も近年肺がんや縦隔腫瘍に対する完全胸腔鏡下手術の適応を積極的に拡大しています。完全胸腔鏡下手術では、人差し指大が最大（最終的に肺を取り出すときに3cm程度に拡張）である3～4箇所の皮膚切開で、胸の中をTVモニターに映し出して手術を行います。

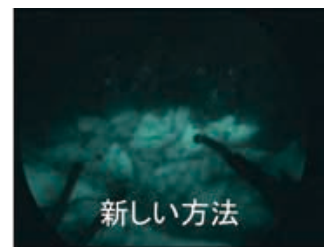
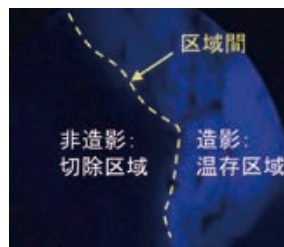
鏡視下手術にも種々の方法がありますが、①小さな傷で胸壁への負担を小さくし②拡大したモニター視で安全に③開胸と同等の手術を行うことが、私たちのコンセプトです。主に早期（IA）肺がんや転移腫瘍、縦隔腫瘍が良い適応です。

さて、肺は肝臓などと違い再生されることはありませんので、手術に際して肺機能を温存することも重要です。そのような目的で行う手術が縮小手術（区域切除や部分切除）です。しかし、現在肺がんの標準手術は肺葉切除術（大きく切除）ですので、早期肺がんの中でも転移・浸潤能力がまだ備わっていないと考えられる時期に限って適応としています。また区域切除は比較的難易度の高い手術ですので開胸で行うのが一般的ですが、私たちは完全胸腔鏡下で積極的に区域切除を行い良好な結果を得ています。特に新たな蛍光画像を使用した完全胸腔鏡下区域切除に関しては世界でもトップを走っています。

私たちの使命として、患者さんにとって最良と考えられる医療・外科治療を提供するための情報収集や技術向上に尚一層努めてまいります。

● ICGを使用した蛍光画像による胸腔鏡下区域切除

さらに新たな蛍光画像により、視認性を改善しています。新たな方法ではより鮮明に境界が分かります。



診療医の紹介

中央病院～放射線治療部～

放射線治療部はレジデントも含め7名の医師でいろいろな種類のがんに対しての放射線治療を担当します。治療装置の進歩で高精度放射線治療が普及しており、治療効果は大幅に改良され副作用も減らせるようになりました。一方で治療計画や品質管理が複雑になってきており技師、医学物理士、外来看護師との質の高いチーム医療がより重要となっています。よりよい治療を患者さんに提供するため皆で力を合わせて頑張っています。



前列左から：牧田智誉子（医長）、古平毅（部長）、立花弘之（医長）、富田夏夫（医長）
後列左から：伊藤誠（レジデント）、加藤大貴（レジデント）、小出雄太郎（専門員）

泌尿器科領域における、 最新型の手術支援ロボットダヴィンチXiの導入

中央病院～泌尿器科部～



泌尿器科部長

曾我 倫久人

愛知県がんセンター中央病院泌尿器科のトピックスとしては、2015年7月に、名古屋市内で初めて導入した、最新型の手術支援ロボットダヴィンチXiに関わるものが上げられます。4世代目の手術支援ロボットであり、旧モデルからデザインを一新しています。最大の特徴は、ブームとよばれる、地面に水平に移動する支柱から、ロボットのアームが吊り下がっていることが挙げられます(図1)。

この構造により、自由に患者さんに接続することが可能で、麻酔導入から、ロボット操縦までの時間を、格段に短縮することが可能になりました。術者はコンソールと呼ばれる操縦席から、ロボットアームの操縦を行います(図2)。

3D画像構築がされた、鮮明な視野のもとに、数ミリ単位で自由に鉗子の操作が可能であり、手術自体の概念が一変された印象があります。現在保険診療にて認められている術式は、前立腺がんに対する前立腺全摘除と、腎がんに対する腎部分切除のみです。

前立腺全摘除に関して、従来の小切開の手術を比較すると、低侵襲(出血量の低下、創部の縮小化、術後除痛剤の減少、術後尿道カテーテル留置の短縮、入院期間の短縮)、機能温存(術後尿失禁の低下)が実現できています。将来的には、様々な領域でロボット手術が導入されていくと考えられています。

ロボット手術に御関心がある方は、是非、愛知県がんセンター中央病院泌尿器科に御連絡していただきたいと思っています。



図1

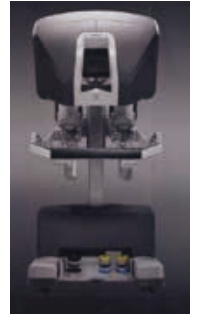


図2

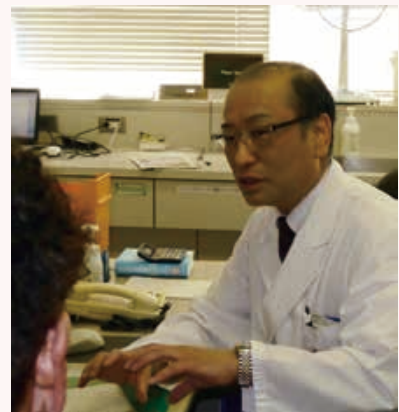


前列左より：景山医師、曾我医師、小倉医師
後列左より：望月看護師、辻元看護師、工藤看護師、兵藤看護師

診療医の紹介

部長の循環器専門医の波多野潔です。平成6年から当センターに勤務しております。さて、現在の社会現象として高齢化が進んでいます。がん患者様にも高齢化が進んでおり、当然、重症循環器疾患を持つがん患者さんが増えてまいりました。医学の進歩に伴い重症循環器疾患の合併された症例にも高度ながん治療が可能となり、がん治療後についでに循環器治療も済んでしまうケースもあり、患者様に喜んでいただいております。当部の特徴として、がん漢方を含む漢方診療も行っております。がん漢方は特殊な診療分野ですが、がん漢方の知識、経験も集積してきましたので、最良のがん漢方を提供できるものと自負しております。がん漢方を希望される患者様がおみえになりましたら、ご紹介下さい。

中央病院～循環器科部～



循環器科部長 波多野 潔

栄養管理部から

免疫力を高める食事について

免疫力を高めるため必要なことはまず、

① バランス良く食べることです。

炭水化物、たんぱく質、ビタミン、ミネラルを偏りなく摂ること。

つまり、毎食、主食（ご飯、パン、麺を1種類）・主菜（肉、魚、豆腐、を1品）・副菜（野菜、きのこ、海藻など）を食べ、1日1～2回果物と乳製品を摂りましょう。

② 抗酸化作用のある食品を食べましょう。

抗酸化作用といっても、同時に酸化物質を持っていることがあるので、同じ食品ばかり食べるのではなく、色々な食品を組み合わせると効果的です。



当院の食事

(黄色は抗酸化食品)

きのこご飯

舞茸・しめじ・人参・あさつき

ブリの照焼

鱈・ししとう・はじかみ

野菜の含め煮

野菜茶巾・大根・人参

吸い物

ほうれん草・焼き麩

果物 (みかん)

718kcal 蛋白26.7g

医療連携室のご案内

対応時間	月曜日～金曜日 午前9時00分～午後7時00分 土曜日 午前9時00分～午後1時00分 (祝日、年末年始を除く)
電話	052-764-9892 (直通)
FAX	052-764-9897 (24時間稼働しております。)
ホームページ	http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/ 中央病院トップページ右手にある「医療連携」のバナーをクリックしてください。 利用の手引や様式など、詳細を掲載しております。

外来診療案内

受付時間	午前8時30分～午前11時30分 (自動再来受付機による受付は午前8時からできます。)
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液・細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、緩和ケア科 (精神腫瘍科・リンパ浮腫外来・ペインクリニック)
外来診療担当医一覧	毎月1回、月初めに更新しています。詳しくはホームページをご覧ください。
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。

※再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911 (直通) 午前9時～午後5時(土・日・祝・年末年始を除く)

※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。(完全予約制・自由診療)

※精神腫瘍科は、予約のみの対応です。

交通のご案内

★公共交通機関のご案内

地下鉄利用 名城線「自由ヶ丘駅」2番出口から徒歩7分

市バス利用 基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩4分

★車でのご案内

◎一般道路

本山交差点から北へ約10分、平和公園の北西

◎高速道路

東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分

名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分

※詳しくはホームページをご参照ください。



愛知県がんセンター Tel.(052)762-6111 Fax.(052)764-2963

〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号 ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

愛知県がんセンター

検索